



笹賀地区福祉の地域づくり協議会の主催により、3月12日に笹賀地区福祉を語る集いが開催されました。

当日は、笹賀地区のより良い地域づくりのため、協議会の委員や関係団体、一般の皆さんなど、会場一杯の参加者が集まりました。

# 笹賀公民

## 笹賀地区福祉を語る集い、開催される

笹賀の世帯数・人口	
世帯数	4,496 世帯
人口	11,198 人
男	5,659 人
女	5,539 人
(平成 28.3.1 現在)	

はじめに、平成 26 年 2 月に設立された協議会の活動経過と今年度の実績報告、28 年度に向けての展開について、同会の太田会長より報告と説明がありました。

協議会の中には各活動委員会があり、その活動として進められてきた、見守り安心



福祉を語る集いに出席して、安心して住みよい地域づくりのため、より一層地域の絆を強めていくことが必要だと強く感じました。

続いて、東耕地、空港東、下二子の 3 町会から、実践活動の事例として、各町会で行われている福祉活動について発表がありました。それぞれの町会の特色を活かした取り組みでしたが、「一歩身近な隣組単位からの支え合い、見守り活動を行うことが必要だ」との考え方が共通していました。

ネットワーク作り、認知症予防のための笹賀地区ケアひろばの充実、買い物弱者への支援、見守り支援体制の確立、こどもの登下校の安心・見守り体制づくりの 5 項目について、経過報告と新年度の活動目標が示されました。

今後は、笹賀地区福祉ひろばを介護と介護予防、生活支援、支え合いの場所とする体制づくりを進め、地域福祉の総合ステーションにすることを目標にすることです。



軽快な演奏

新春コンサートを楽しみ、属の共鳴パイプをつけた 2 台の連立した楽器で、マレットというゴム製の撥で叩いて音を出し演奏しています。

マリimba は木製の鍵盤に金網の共鳴パイプをつけた 2 台の連立した楽器で、マレットというゴム製の撥で叩いて音を出し演奏しています。

「新春コンサート」  
音を楽しむ  
マリimba & パーカッション

松本市は、教育を重んじ、文化を尊ぶ伝統と優れた風土を持ち、「岳都」であり「楽都」としても世界に向けて広く発信してきました。真に活力と魅力ある郷土づくりを進めるため、昭和 60 年には、「音楽とスポーツ都市宣言」を掲げています。市民が音楽に慣れ親しむ昨今、笹賀地区でも豊かな音楽の世界へのいざないが心に潤いを感じさせる一時になりました。

新春コンサートを楽しみ、属の共鳴パイプをつけた 2 台の連立した楽器で、マレットというゴム製の撥で叩いて音を出し演奏しています。



来場者もマリimbaを体験

# 狭間壮さん・ゆかささん ひだまりコンサート開催



2月26日、笹賀地区福祉ひろばで、地区人権啓発推進協議会と公民館の共催により、ひだまりコンサートが行われました。

歌とお話は、テノール歌手の狭間壮さん。伴奏は、奥さまでピアノストのはざまゆかささんをお迎えしてのコンサートでした。

夜7時と、少々遅い時間に開始された演奏会だったが、にもかかわらず、会場に用意された席は、ほぼ満席になりました。演奏者の狭間さんも、びっくりした様子で、開口一番に「こんな(遅い)時間に、どこからこんな人が集まったのですか?」と楽しいトークで笑いを誘っていました。

「春よこい」の童謡から始まったプログラムは、新美南吉



コンサートの様子

作の童話「二匹のカエル」の朗読と、申年に因んだ「お猿のかごや」の歌に続き、映画音楽をテーマに「青い山脈」「喜びも悲しみも幾年月」、海外映画の「ケ・セラ・セラ」の主題歌と進んでいきました。

狭間さんが自費出版しているエッセイ集「赤とんぼ」の心の1曲の中からは、懐かしい「花嫁人形」と「私のラバさん」の歌。どちらも太平洋戦争で帰らぬ人となった、大切な人をおもったエッセイの朗読が添えられました。

狭間壮さんの、幅広い人生経験と深い洞察から語られるひとつひとつのお話は、人間としての命の尊さや、平和への思いや祈りにあふれ、集まった人たちの共感を呼んでいました。

普段、コンサートと言えば、圧倒的に女性が多いのですが、このひだまりコンサートに参加した人の半数は男性というのは、特徴的な感じがありました。

集まった聴衆の皆さんの、命の尊厳と平和への思いが伝わってくる催しとなりました。

# 生涯骨太クッキング「男の料理教室」 厨房に入る!!

笹賀公民館は2月23日、「男の料理教室」を開き、地区内から11人が参加しました。

講師として笹賀地区食生活改善推進員の8名が指導にあたり「生涯骨太クッキング」をテーマに、牛乳や乳製品を使って、家庭で上手にカルシウムを摂ることが出来る料理を学習しました。

「鮭ときのこのチーズホイ

ル焼き」「牛乳入り具たつぷり味噌汁」「切り干し大根の酢の物」「季節のフルーツのヨーグルトかけ」の4品に挑戦しました。

食生活改善推進員の竹内穂波代表は、「数年前に発足した食改も会員が増え、活動も活性化している。食の大切さを地域に伝えていきたい」と夢を膨らませていました。減塩

# ラージボール卓球初体験 第31回公民館対抗卓球大会

笹賀公民館は1月31日、第31回卓球大会を多目的ホールで開き、14町から選手、役員、応援にと2000人余が参加しました。

●30年前の夢にまた一歩  
笹賀地区卓球大会は、松本市が開催する市民体育大会の地区対抗競技の強化を目指す

し、卓球の普及と地区の親睦を兼ねて30年前に発足しました。昨年までは、硬式卓球による一般の卓球大会でしたが、今回から、初心者向けに開発され生涯スポーツとして広まりを見せる「ラージボール卓球」を導入しました。

●下二子チーム優勝  
大会は、3〜4チームが4つのブロックに分かれ、リーグ戦で1位になったチームが、トーナメントで優勝を競いました。

抽選で、優勝経験のある今、



料理に挑戦

とカルシウムの摂取を心がけた「男の料理教室」でした。

下二子、神戸の各町会が同ブロックになり、激戦を勝ち抜いた下二子が決勝でも東耕地を圧倒し、トーナメントを制して5回目の優勝を飾りました。

●元氣な70代の選手も  
各チームには、70代の選手が何人か出場していました。

かつて、公民館や農業倉庫の片隅に卓球台が置かれていて、「裸電球の下で遊んでいた」という世代が、「昔取ったきねづか」と言わんがばかりにその片鱗を見せていました。

## 【大会結果】

- 優勝 下二子
- 準優勝 東耕地
- 第3位 中二子

二美町2丁目